

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成19年度業務実績項目別評価表(案)

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|---|---|---|---|--------------|------|-------|----|
| 1 | 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 | 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 | | | | | |
| 2 | (1)研究者の採用等の研究開発の推進 | (1)研究活動 | | | | | |
| 3 | ①学際的な研究プロジェクトを展開。革新的なプロジェクトを実施するとともに、科学分野間の相互作用を促すことのできる研究領域において、研究組織を創設。 ②内外の研究者の招致 | | ○研究者（主任研究者、一般の研究員、（ポスドク）、技術員）（特に外国人）は計画的に増員されているか。 ○中期計画に定められている「主任研究者20人、研究スタッフ総数200人」に比較した進捗状況は適切か。 | | | | |
| 4 | | シーサイドハウスの改修スペースにいくつかのグループを収容できることから、数理生物学・計算生物学の分野での研究者の募集を引き続き行う。 | ◎数理生物学、計算生物学分野の主任研究者の募集を行ったか。 ○募集の方式は適切であったか。 ○シーサイドハウスの改修スペースへの研究ユニットの収容状況は適切か。 ○シーサイドハウス内の改修スペースにおける研究活動の実施状況は適切か。 | | | | |
| 5 | | 霊長類脳科学センターのための研究者募集を平成19年の夏の終わりから行う。これについては、大学院大学に対する国外の研究者の参加を維持し、さらに拡大することができるよう幅広く行う | ◎霊長類脳科学センターのための国際的な研究者募集を行ったか。 ○募集の方式は適切であったか。 ○募集プロセスの進捗状況、今後の見通しは計画的に進行しているか。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|---|---|---|---|--------------|------|-------|----|
| 6 | | 銅谷・柳田の2研究ユニットの研究評価について、他の代表研究者の評価と併せて今年度に行う。外部の評価委員を選任し、それぞれに評価委員会を設置する。評価対象研究ユニットは研究成果の報告書を作成し、これに基づき、評価委員会が研究評価を行う。 | ◎銅谷・柳田の研究ユニットについて外部の評価委による研究評価を年度内に実施したか。 ◎他の主任研究者の評価に着手したか。 ○研究評価のプロセスの公平性、透明性が図られているか。 ○今後の各研究ユニットの評価計画は適切に立てられているか。 | | | | |
| 7 | ③新たに展開される方向性の研究について議論するアドバイザーグループの設置。 (中期計画期間後半の早い時期) | | ◎新たに展開される研究の方向性に係る検討について具体的進捗を得たか。 ○運営委員会におけるアドバイザーグループの設置又はこれに類する幅広い検討を行うための取組が適切になされたか。 | | | | |
| 8 | (2)研究成果の普及 | (2)研究成果の普及 | | | | | |
| 9 | ①国際的な学術誌への発表を奨励。 ②研究活動に関する年次報告書の作成。 ③各種メディア、講演会等を通じて一般社会に成果を紹介。 | ① IRP (大学院大学先行研究プロジェクト)の活動を取りまとめた年次報告書を引き続き作成する。 ② 機構の多くの研究者による内外での講演、沖縄のコミュニティにおける広報活動の更なる充実を図る。 | ◎年次報告書・ニュースレターを作成したか。 ◎メディア、講演会等を通じた普及について昨年以上に実施したか。 ○国際的学術誌への研究成果の発表件数の増加(対前年度比)。 ○国際的学術誌へ発表した研究内容についての引用状況。 ○年次報告書・ニュースレターの効果的な配布。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|---------------------------|--|---|--------------|------|-------|----|
| 10 | ④知的財産保護のための管理体制の整備。 | | ○知的財産保護管理体制の整備に向けた具体的取組を適切に実施したか。(中期計画内に管理体制の整備を行うことが見込まれる状況であるか。) | | | | |
| 11 | ⑤国際ワークショップやセミナーの継続実施 | | ○国際ワークショップやセミナーの実施件数の増加(対前年度比)。 ○国際ワークショップやセミナーの参加者数の増加(対前年度比)。(特に外国人から十分な参加を得ること)。 ○国際ワークショップやセミナー参加者から総合的に満足した結果を得ているか。 ○国際ワークショップやセミナーに対する質の確保・評価のあり方に対する改善を行っているか。 | | | | |
| 12 | (3)研究者養成活動 | (3)研究者養成活動 | | | | | |
| 13 | ①連携大学院制度を活用する等で学生の受け入れ指導。 | ① 計算神経科学コースを、引き続き開催する。今年度以降、順次、このコースを受講する学生の単位取得機会の拡大を図っていく。 | ◎計算神経科学コースを開講したか。 ○内外の大学からの(修了要件としての)単位認定状況を進展させたか。 | | | | |
| 14 | | | ○連携大学院大学制度等を適切に活用したか。 ○機関数及び受入数を増加させているか。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|--|--|---|--------------|------|-------|----|
| | | | | | | | |
| 15 | ②大学院レベルの研究者養成プログラム開始準備への取り組み。 | (2)⑤に同じ | | | | | |
| 16 | (4)大学院大学設置準備活動 | | | | | | |
| 17 | ①大学院大学の教育研究分野・組織体制及び教員の人事制度についての考え方の明確化。 | ① 大学院大学の具体的な設立準備に着手するため、理事長の指揮の下で検討・調査すべき一連の課題を特定した。これらについて、明確なタイムテーブルに従い取り組んでいく。 | ◎ 設立準備活動を具体的に進める体制を整備したか。 ○ 検討すべき内容を計画的に策定したか。 | | | | |
| 18 | | ② 研究活動の調整を行うことができるよう、大学院大学設置に向けた組織作りを引き続き行う。 脳科学、数学・計算科学、分子科学の3つのファカルティを設立。代表研究者は、1つ以上のファカルティのメンバーになることができることとする。 | ◎ 3つのファカルティの設立等、大学院大学設置に向けた組織作りを行ったか。 ○ 教育研究分野、組織体制、教員の人事制度及び大学院大学の組織規程に関する検討を適切に進展させたか。 | | | | |
| 19 | ②大学院大学の学長及び主な役職員の候補者に関する調査の開始 | | ○ 大学院大学の学長及び主な役職員の候補者に関する調査に向けた準備を進展させたか。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|---|---|---|--------------|------|-------|----|
| 20 | (5)施設整備 | | | | | | |
| 21 | <p>①恩納村における新施設設計計画の監督のための研究者からなる委員会を組織。</p> <p>②プロジェクトマネージャー等の支援を得ながら施設整備を実施。</p> | <p>① メインキャンパス林道沿いの民有地買収に着手する。</p> <p>② 造成工事(1期)を年度前半に完了させ、年度後半からラポー1及びセンター棟の建設工事に着手する。</p> <p>③ 年度の前半に造成工事(2期)に着手し、ラポー2建設用地の造成工事を完了させる。</p> <p>④ 橋梁工事(5,6,7号橋)を完成させる。</p> <p>⑤ ヴィレッジ・ゾーンの宿泊施設に関しては、PFI方式による施設整備の可能性を引き続き検討する。</p> <p>⑥ シーサイド・センターの施設整備に関しては、ゲスト用宿泊施設の設計及び工事に着手する。</p> | ◎平成19年度計画記載事項を着実に実施したか。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|---------------------------------------|---|--|--------------|------|-------|----|
| 22 | 2 業務運営の効率化に関する事項 | 2 業務運営の効率化に関する事項 | | | | | |
| 23 | (1)組織運営及び財務管理 | (1)組織運営及び財務管理 | | | | | |
| 24 | ①管理運営業務の効率化。 ②財務管理の仕組みの構築や各種規則の整備。 | ①事業拡大を計画通りに円滑に進めるため、事務組織の改編を引き続き行う。 | ◎事業拡大に対応した事務組織改編を実施したか。 ○新たな事務組織の円滑な運用。 | | | | |
| 25 | | ②現行の全ての規程等について、外部監査機関による点検を行い、法令遵守の観点から必要に応じ適宜改正を行う。 | ◎規程等について外部監査機関による点検を行ったか。 ◎点検結果を踏まえ、順次、規程の改正等の対応を行ったか。 ○点検結果を踏まえた対応を行う際の対処方針は適切であったか。 ○取組状況の公表状況。 | | | | |
| 26 | | ③公共工事及び調達に係る手続きについては、適切な文書管理、経費削減及び透明性確保の観点から改善を行うこととし、随意契約に代えて、一般競争入札を積極的に導入していくこととする。 | ◎適切な文書管理に向けた取組を実施したか。 ◎契約に係る情報開示の取組を行ったか。 ◎一般競争入札の原則化を行ったか。(別添)独立行政法人の随意契約見直し一覧表参照。 ○随意契約の割合(他の独法等との比較による) ○随意契約の見直し等に伴う経費削減の状況。 | | | | |
| 27 | | ④ 新たな区分システムの導入により研究事業の予算管理について改善を図る。 | ◎研究事業の予算管理の改善を図ったか。 | | | | |
| 28 | | ⑤ 経費削減や業務の効率化を図ることができる場合は、特定の業務について外部委託の導入を検討する。 | ◎外部委託可能な業務について、新たな外部委託を実施したか。 ◎官民競争入札の活用について検討を行ったか。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|---------------------|--|---|--------------|------|-------|----|
| 29 | | ⑥ 職員の業務評価制度の改善を図るとともに、定例化を図り評価に必要な書類を整備する。 | ◎職員の業務評価制度の改善及び定例化を図ったか。 | | | | |
| 30 | | ⑦ 研究者及び一般国民の双方にとって、機構の最新の事業内容が適時に反映されるようホームページを改善することにより、広報活動を充実させる。また、リーフレットその他の印刷物の内容を更新するとともに、ニュースレターを定期的に発行する。 | ◎法律で義務づけられている情報の公開を行ったか。 ◎キャンパスサイト建設工事等施設整備の進捗状況、研究活動、イベントの紹介等機構の活動を外部へ発信するためのホームページの定期的更新を行ったか。 ◎リーフレット等印刷物の更新をしたか。 ◎ニュースレターを定期的に発行したか。 | | | | |
| 31 | ③大学院大学の給与体系の検討。 | | ○大学院大学の給与体系の検討状況。 | | | | |
| 32 | ④外部資金の獲得。 | | ○外部資金、競争的研究資金の申請状況。 ○外部資金、競争的研究資金の獲得状況。 ○申請及び獲得を支援する取組の実施状況。 ○その他の外部資金の獲得努力。 | | | | |
| 33 | ⑤事務職員の専門能力を高めるための措置 | | ○事務職員の専門能力向上のための各種研修等の実施。 ○研修等についての新たな改善・工夫の状況。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|------------------------------------|--|--|--------------|------|-------|----|
| 34 | | (2)運営委員会関連 | | | | | |
| 35 | | ① 研究活動及び大学院生対象の教育活動を進展させるための計画とタイムテーブルについては、理事長が運営委員会と協同で取り組む。 ② 平成19年度中に運営委員会を2度開催し、そのうち1回は沖縄で開催することとする。 | ◎理事長と運営委員との連携についての取組実績。(研究活動等について、理事長が運営委員長と連携して具体的進捗を得たか。) ◎運営委員会の開催(2回) | | | | |
| 36 | (2)活動評価 | | | | | | |
| 37 | ①先行的研究事業の研究評価を行う特別委員会を設置(平成18年度～)。 | 1(1)③に同じ | _____ | _____ | | | |
| 38 | 3 予算、収支計画及び資金計画 | | | | | | |
| 39 | 別紙のとおり | | ○予算に対する適切な執行をしたか。 ○収支計画に対する適切な執行をしたか。 ○資金計画に対する適切な執行をしたか。 ○業務内容等に応じた適切な区分に基づくセグメント情報を開示したか。 ○目的積立金を申請していない場合はその理由を明示したか。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|---|-------------------------|---|--------------|------|-------|----|
| 40 | 4 短期借入金の限度額 | | | | | | |
| 41 | 上限10億円。 | | ○短期借入金の発生状況。(発生及び借入額、借入時期の適正性。) | | | | |
| 42 | 5 重要な財産の処分等に関する計画 | | | | | | |
| 43 | 計画なし。 | | | | | | |
| 44 | 6 剰余金の使途 | | | | | | |
| 45 | 研究事業の充実及び研究環境の整備に充てる。 | | ○剰余金の発生理由及びその使途。 | | | | |
| 46 | 7 その他内閣府令で定める業務運営に関する事項 | | | | | | |
| 47 | (1)施設・設備に関する計画 | 1(5)と同じ | _____ | _____ | | | |
| 48 | 中期目標期間末に恩納村の建設予定地で施設の供用を開始することを目指して、施設整備を計画的に進める。 | | | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|------------------------|--|--|--------------|------|-------|----|
| 49 | (2)人事に関する計画 | | | | | | |
| 50 | ①業務運営の効率化により、常勤職員の増加抑制 | ・事業拡大を支援する優秀な技術スタッフ及び事務スタッフの採用活動を引き続き行う。 | ◎事業拡大を支援する技術スタッフ及び事務スタッフを計画的に採用したか。 | | | | |
| 51 | ②柔軟で機動的な人員配置。 | | ○給与水準の適正化に努めたか。 | | | | |
| 52 | ③任期制職員を措置。 | | ○給与水準について、以下の観点等から国民の理解の得られる説明となっているか。 ・在職地域、学歴等の要因 ・是正の余地 ・類似業務を行っている民間事業者の給与水準 ・業務内容 | | | | |
| 53 | (3)積立金の処分に関する事項 | | | | | | |
| 54 | 計画なし。 | 計画なし。 | | | | | |
| 55 | 8整理合理化計画等に基づく事項 | | | | | | |
| 56 | | ・資産の有効活用 | ◎資産の有効活用を行ったか。(主要な固定資産についての減損会計の情報(保有目的、利用実績など)なども十分活用して保有目的・利用状況を把握) ○シーサイドハウスの有効な活用に向けた検討を行ったか。 | | | | |

| | 中期計画の各項目 | 評価項目 (平成19年度の計画の各項目) | 評価の視点 ◎:「満足のいく実施状況」と評価するために求められる実績 ○:その他の考慮要素 | 実績 (記載事項) | 自己評価 | 分科会評価 | 備考 |
|----|----------|---------------------------|--|--------------|------|-------|----|
| | | | | | | | |
| 57 | | ・内部統制(コンプライアンス体制の整備等について) | ◎コンプライアンス体制の整備等、内部統制の強化のための取組を行ったか。 | | | | |
| 58 | | ・公的研究費の不正使用等の防止に関する取組。 | ◎総合科学技術会議が示した「公的研究費の不正使用等の防止に関する取組について(共通的な指針)(平成18年8月)等に沿った、公的研究費不正使用等の防止の体制、ルール整備、ルールの明確化等の実施をしたか。 | | | | |

※実績が◎の「満足のいく実施状況」に沿った内容に達しない場合、

- ①その合理的理由があるか、
 - ②代替となる取組が行われているか、
 - ③今後、中期計画の達成見通しがあるのか
- 等の観点を含め、総合的に評価を行う。